

第 8 章

女子学生のためのキャリア形成講座

平成23年度埼玉県私立短期大学協会・国立女性教育会館連携
キャリア教育プログラム

中野 洋恵

1 はじめに

キャリア教育の必要性が中央教育審議会で指摘されたのは、平成11年「初等教育と高等教育の接続の改善について（答申）」で、10年以上の時間が経過した。近年の「若者の社会的・職業的自立」や「学校から社会・職業への移行」をめぐる様々な課題や、グローバル化、就業構造・雇用慣行の変化等による教育、雇用・労働をめぐる新たな課題が顕在化する中で、キャリア教育の重要性はますます大きくなっている。

平成23年1月に出された中央審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では幼児期から高等教育まで体系的にキャリア教育を進めることが基本的方向性としてあげられている。そして特に大学・短期大学については大学設置基準等の改正により、社会的・職業的自立に向けた指導等に取り組むための体制の整備が位置づけられ、平成23年4月から施行されることになった。さらに男女共同参画の視点を踏まえたキャリア教育として「特に、妊娠・出産等のライフイベントの影響を受けやすい女性について、社会において女性が置かれている状況や多様なライフスタイルの選択を可能とする支援策や女性のライフイベントを意識したキャリア教育」に言及している。大学・短期大学を卒業する女性のキャリア教育につい

て力が入れていることが明確である。

国立女性教育会館では、「女性のキャリア形成」を喫緊の課題として位置づけ、「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」を実施している。また平成17年度には「女子大におけるキャリア教育・就職支援に関する状況調査」、平成18年度には「短大におけるにおけるキャリア教育・就職支援に関する状況調査」を実施した。18年度調査は女子学生が9割を超える全国の短期大学221校を対象としたにキャリア教育・就職支援に関する調査である。回答が得られた198校の結果を分析したところ、キャリア教育・就職支援に関しては「就職ガイダンス」「就職内定者・OGによる会社説明・体験報告会」「キャリアカウンセリング等の個別相談」は数多く実施されているが、「学生個人のキャリアデザインに関する企画」「教員による正規の教育課程の中での講義等」「企業担当者による会社説明会」を実施していない短大の割合が比較的高いという結果であった。キャリア教育・就職支援に関する課題を質問したところ、学生の状態としては「コミュニケーション力が不足している学生が多い」「自分と社会との関わりについて関心が薄い学生が多い」「働くことやキャリア形成について意欲やモチベーションの低い学生が多い」ことがあげられ、学校の体制としては「時代の流れに即した職員の資質向上が必要だ」と考えられていることが明らかになった。

こうした事業の展開の一環として昨年度から埼玉県私立短期大学協会の依頼により、国立女性教育会館と埼玉県私立短期大学協会とが連携した夏季集中講義に取り組んでいる。今年度は館内に実行チームを作り、プログラムの効果をみるためにアンケート調査を実施したので、本稿では今年度のプログラムの内容と成果について報告したい。

2 プログラムの構成

プログラムの目的をはっきりさせるために、埼玉県私立短期大学協会の先生方と事前打ち合わせ会を持ち、課題と目的の共通理解をはかった。先生方

から出された課題は以下の3点である。

- ・短大生の人間関係の幅はあまり広くなく、キャリアのイメージも親や先生、アルバイト先の大人など狭い範囲でキャリアのイメージが作られている、つまり多様な生き方があるということをなかなか理解できない。
- ・友人があまり多くなく、自分がよく知っている自分に近い人とはうまくコミュニケーションが取れるが、知らない人や別の関心を持っている人とは話すことが難しい。
- ・自分の周りの私的な領域で生活できると思っていて「社会」と自分がつながっていることを理解できていない。それがさらにこれからの自分の生き方を考える上での視野を狭くしている。

そこで今回のプログラムでは、①男女共同参画社会での女性としての生涯を通したキャリア形成を学ぶ、②関係力の育成（人間と人間の関わり合いとその方法と基礎を学ぶ）、③他大学の学生と交わることにより、ダイバーシティ（多様性）を認め、他の文化や人などを尊重する態度を養う、という3つの目標を設定した。そして様々な生き方があること、特に女性はライフステージにおける影響を受けやすいため、ライフプランという長期的見方にたったキャリアが必要であることを理解し、その上で自分が今後どのようなキャリアを形成するかを集中的に考えることができるように夏休みを利用した宿泊を伴う2泊3日のプログラムとして企画した。

プログラムの構成は、平成17年度からプログラム開発研究を継続してきた会館の研究成果であるプログラムデザインに依拠している。組織化した学習を行う上で欠かせない学習目標課題を明確にし、それを具体的な学習内容と学習方法から構成していく（プログラムデザインを作成する）プロセスである。学習目標課題は「組織化された学習」を形成する基本になるもので4つの目標課題群として、A基点・基軸の形成（社会的位置、役割の把握）、B実態把握・理解（実態・問題把握、分析と問題解決するための具体的課題を明らかにする）、C課題解決・実践力の形成、D共通基礎力の形成（省察力、協働力、情報力、関係力等）があげられる。

これら4つの目標課題に沿って、今回のテーマ「これからのキャリアを考える」と対象である短期大学的女子学生に応じた具体的な内容と方法を構成した。それがプログラムデザイン図である（第1図）。

A 基点・基軸の形成

まず、キャリアとは何かその概念を理解し、男女共同参画意識を身につけるという目標を立て「女性のキャリアを考える——複合キャリアとは」「キャリア形成における社会参画の視点（参加から参画へ）——男女共同参画の視点」をテーマに講義とグループ討議を行った。

B 実態把握・理解

自分のこれからのキャリアを考える。会館で作成したブックレットから2つの事例を選びそれぞれのキャリアパスに見られる課題を時間軸で整理し、その解決方法を考えるグループワーク。働く女性のワークライフバランスについて、実際に子どもをもって仕事を続けてきた女性のこれまでの経験の事例報告から考える。

C 課題解決・実践力の形成

女性のキャリアや男女共同参画の実態を把握し、自分の問題としてこれから先の必要な準備について考えるために「男女共同参画統計から女性のキャリアを考える」をテーマに講義とグループワークを行う。

D 共通基礎力の形成

共通基礎力である省察力、協働力、情報力、関係力等を身につけるためにワークショップの中で「書く」「聞く」「話す」機会を作った。また情報力を身につけるための女性教育情報センター・女性アーカイブセンターの見学や、人との関係力を身につけるために「社会人（ビジネス）マナーの基本」という実習もプログラムに組み込んだ。

これらの内容の時間配分と流れを考え、2泊3日の日程にしたものが第1表である。講義を聞いたらそれが理解できているかどうかをグループ討議で確認する、講義で基礎的な知識を得てからワークショップにつなげる、ワー

① 生涯を見通し、複合キャリア（社会活動キャリア）＋「職業キャリア」を考える。
② 複合キャリアを時間軸、空間軸で捉える ③ これからの自分のキャリア形成、現在必要な準備を考える
④ 学習方法としてグループ・ワークや実習を用い、共通基盤力を身につける

埼玉県私立短大協会の女子短大生 80名

学習目標

キャリアについての基礎的
理解

キャリア形成における
一歩合キャリアとはー
(講義) 5

①「女性のキャリアを考える
一歩合キャリアとはー」
(講義) 5

②「キャリア形成における
社会参画の重要性ー男女共
同参画の視点ー」
(講義、グループ討論) 3

プロダクティブ・キャリア・エッセンス 1

男女共同参画意識の醸成

A.基点・基盤の形成

B.基礎的知識・理解

C.課題解決・実践力の形成

D.共通価値力の形成

自己のこれからキャリア
形成を考える
・キャリアパスを提示し、
それぞれのキャリアパスに
みられる問題を整理し、課
題解決を考える。
☆課題解決で考える

社会の節目や位置や節
目をめぐる状況把握
し、必要な準備について
考える。
☆空間軸で考える

内容 (方法)

①「キャリア形成における社
会参画の重要性ー男女共同
参画の視点ー」
(講義、グループ討論) 3

男女共同参画意識の醸成
・自らの意識の視点
・関係性の視点
・社会的性別の視点
・日常性、生活の視点
・プロセスの視点

内容 (方法)

①「女子学生にキャリア教育
が必要である」(講義) 2

②複合キャリアの視点から
キャリアパスの事例分析
(講義、キャリア分析シー
トを活用したグループワ
ーク、発表) 6, 7

③「ワーク・ライフ・ balan
ス」(講義) 8

内容 (方法)

①「男女共同参画設計から女性
のキャリアの現状、存在とい
う節目を考える」
(講義・グループワーク) 9

②「自分自身のキャリアを考え
る」(発表) 13

内容 (方法)

①「子どもたちを3 (レクリエ
ーション) 4

②女性教育情報センター・女性
アーカイブセンター (見学) 10

③「社会人 (ビジネス) マナー
の基本」(講義・実習) 12

④学習成果の確認 振り返り
(グループワーク) 11

クショップの成果は紙媒体のシートにまとめ、それを発表することによって一定の達成感が得られるようにした。最終日にはまとめ・振り返りの時間を取ることによって、聞きっぱなし、やりっ放しではなくこの研修が自分にとってどのような意味を持つのかを考える時間として位置づけた。

第1表 日程

期日	時間	コマ数	実施場所	授 業 内 容	担 当 者
九月一日（木）	13:00		101研修室	開会挨拶	埜短協：藤巻公裕会長 NWE C：内海房子理事長
	13:15 14:00	1	101研修室	プログラムオリエンテーション（事前アンケート）	NWE C事業課 佐國専門職員
	14:10 15:10	2	101研修室	これからのキャリアを考えてみよう	深澤先生（秋草短大） 藤田先生（埼玉純真短大） 平工先生（山村短大）
	15:20 16:20	3	101研修室	講義「キャリア形成における社会参画の画期性（参加から参画へ）ー男女共同参画の視点」	NWE C客員研究員・前理事長 神田道子先生
	17:00 17:45	4	本館	情報収集の手段を学ぶ （女性教育情報センター・女性アーカイブセンター）	NWE C情報課 森専門職員
	18:00		レストラン	夕 食	自由に館内散策
	19:30 21:00	5	ミーティング ルーム	自己紹介・レクリエーション 友達を作ろう	安倍先生（埼玉純真短大）
九月二日（金）	7:30 8:30		レストラン	朝 食	
	9:00 10:00	6	101研修室	講義 「女性のキャリアパスを考えるー複合キャリアとは」	NWE C研究国際室 中野室長
	10:15	7	101研修室	グループワーク 「複合キャリアの視点からキャリアパスの事例分析」 （5人×4グループ）	NWE C研究国際室 野依研究員
	14:00			グループ発表「複合キャリアの事例分析」	
	14:10 15:20	8	101研修室	ワーク・ライフ・バランス-女医の場合を中心に-	埼玉医科大学 名越澄子教授
	15:30 17:00	9	101研修室	講義・グループワーク 「男女共同参画統計から女性のキャリアを考える」	NWE C情報課 森専門職員
	18:00 19:30		レストラン	夕 食	自由に館内散策
	19:30 21:00	10	ミーティング ルーム	グループワーク 「ゲストスピーカーのキャリアに学ぶ」	ゲストスピーカー
九月三日（土）	7:30 8:30		レストラン	朝 食	
	9:00 10:00	11	101研修室	「社会人（ビジネス）マナー」の基本	細田先生（埼玉女子短大）
	10:10 11:45	12	101研修室	討議・まとめ「自分自身のキャリアを考える」	NWE C事業課 佐國専門職員
	11:45 11:55	13	101研修室	まとめ、振り返り（事後アンケート）	
	11:55		101研修室	閉講の挨拶	関係者（埼玉県私立短期大学協会、国立女性教育会館）全員からコメント

3 ワークショップの進め方

効果的なワークショップとするために、事前に時間配分と進め方をファシリテーターを担当する会館職員で検討し、学生の状況に応じて修正しながら進めた。参加した学生は25人だったので1グループ5～6人、全体で4つのグループを作った。

「複合キャリアの視点からキャリアパスの事例分析」

このワークショップのねらいは、複合キャリアの事例を通して具体的に複合キャリアを知ること、事例のキャリアパスを跡づけながら社会的背景とメリット・デメリットを知ること、それぞれのキャリアパスから女性のキャリア形成における社会構造を学ぶことである。初めに複合キャリア（職業キャリアと社会活動キャリア）について講義を行い、概念を整理したうえで実際の女性の事例を分析した。

分析に際しては事例の分析シートを活用した。分析の視点はどのような職業キャリアと社会活動キャリアを経験してきたか、どのようなライフイベント（卒業・結婚・出産・介護など）があったか、キャリアを中断したり新しいキャリアを積むきっかけとなった出来事は何だったのか、キャリアを形成する上でどのような困難があったのか、そしてそれをどのように乗り越えたか、何を学んだか、どのような人間関係を作ってきたのかを学生時代に遡って時系列に記入していくという作業を行った。

分析対象は2人の女性である。会館が調査研究の中でインタビューの対象となった女性でその研究成果であるブックレットにまとめられている。事例については事前に読んでくるという事前学習を課した。

ブックレットに登場する女性は40人を超えるが、今回のプログラムでは対象者が短期大学生であること、保育科の学生もいることから身近に考えられる事例として短大卒業後、結婚して仕事を辞めるが、子育て期に女性セン

ターの「女性の生き方を考える講座」で職業を持つことの重要性を認識し、再就職講座に参加し、口コミも含めた地域の情報をキャッチして仕事につなげたKさん（50代）と子育て相談や子連れで行ける場所がなかった自身の経験から子育てNPOを立ち上げたMさん（40代）である。2つのグループはKさんを取り上げ、あとの2つのグループがMさんを取り上げた。

進め方

10：30－10：35 グループワークの説明とグループ内の役割分担を決める
（記録、発表）

10：35－11：15 輪読

事前に読んでおくことを課していたが、確認のため輪読の時間をとった。

11：15－12：00 付箋記入

輪読後、各自でワークシートの項目ごとに読み取ったことを付箋（ポストイット）に記載し、それを順番に発表しながらワークシートに貼り付けていく。コーディネーターが全体を見ながら進行する。

13：15－13：30 ワークシート作成

ポストイットを貼り終えた段階で全体を通して話し合いながら気がついたことを書き込む作業を行った。

13：30－14：00 発表とコメント

作成したワークシートを全員の前に貼りだしグループごとに発表した（第2図）。

第2図 事例分析で作成したワークシート

[illegible]

「男女共同参画統計から女性のキャリアを考える」

これからの生き方や働き方を考えるためにはまず現代社会の実態を知る必要がある。そのために女性のキャリアや男女共同参画に関する統計データを読み解くことによって理解を図った。参考資料として『男女共同参画データブック2009』を配布した。

女子短大生が興味を持ちそうなデータとして、希望するライフコース、結婚・離婚、労働力率、賃金の男女差、夫の家事時間、平均寿命等の統計データを取り上げ、クイズ形式で質問しながら実際のデータをHPから紹介して解説を加えた。具体的には「男性が女性に期待するライフコースで一番多いものはどれでしょう？ 次のの中から選んでください①専業主婦コース、②再就職コース、③両立コース、④DINKSコース、⑤非婚就業コース」という質問で学生がシートに記入する。その後を実際のデータから解説、データブックの186ページにある出生動向基本調査のグラフを紹介するとともに、国立社会保障・人口問題研究所のホームページにアクセスしデータの出所を示した。

6つのデータを解説した後で、もっとも印象に残ったデータ、これから変わってほしいと思うデータはどれだったかをグループで話し合うことによって自分と関わりがあるという認識の定着を図った。

進め方

15：30－16：30 クイズと解説

16：30－16：50 グループでの話し合い

16：50－17：00 発表とコメント

まとめ・振り返り

最後のプログラムは「まとめ・振り返り」で2泊3日の学習内容を自分の中に定着させる時間とした。「自分自身のキャリアを考える」ワークシートを使い、3日間のプログラムを振り返って、心に残った講義、ことば、内容と心に残った理由を記入した。それをグループ内で話し合ったあと、自分自

Ⅲ プログラム開発

身のキャリアを考えるために「私の〇〇年後をイメージしてどのようなキャリアを形成しているのか」について作文を書いた。

進め方

10：20－10：25 ワークシートⅠの記入（個人作業）

10：25－10：40 ワークシートⅠについてグループ内で話し合い

10：40－11：15 ワークシートⅡの記入（個人作業）

11：15－11：33 ワークシートⅡについてグループ内で発表

11：33－11：45 グループでの話し合いの概要を代表者が発表

4 プログラムの成果

今回のプログラムの特徴はプログラムの効果を明らかにすることにあった。その一つがプログラムが女性のキャリアや男女共同参画の意識に影響を及ぼすかどうかである。そのために事前と事後に男女の地位、性別役割分業観、希望するライフコース、社会との関係に関する同じ質問項目によるアンケート調査を実施した。

「あなたは社会全体で見た場合には男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに近い%に○をつけてください」という質問項目に対し「平等だと思わない」が13人から16人になり、受講前は男女平等だと思っていたが、受講後そうでもないことに気がついた。

また「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について「そう思わない」が16人から19人になり、「女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どものことなど家族を中心に考えて生活した方がよい」の「そう思わない」が12人から16人に増えるなど、意識の変化があった考えることができる。

ライフコースの考え方にも変化が見られた。「あなたは今、自分のライフコースをどのように考えていますか」という質問で専業主婦コース、再就職コース、両立コース、DINKSコース、非婚就業コースから一番近いものと二番目に近いものを選ぶこととした。

その結果どちらかに専業主婦コースを選んだ学生は10人から4人に減少し、両立コースを選んだ学生が11人から15人に増加した。その他のコースには変化が見られなかった。

つまり今回の研修を受けることによってそれまでの「専業主婦」志向が弱くなり、「両立コース」志向がやや強くなったといえる。

ワークショップの時間にも「辞めたらあと仕事を探すのは大変なんだ。Kさんは仕事を辞めなければよかったのに」「今まで結婚したら専業主婦って思っていたけれど仕事するのもいいかも、揺れています」「でも子どもはやっぱり自分で育てたいなあ」「夫となる人によるんじゃないの」など活潑に意見交換が行われていた。

社会との関係についても、「社会がよくなってこそ個人がよくなる」という質問について「そう思わない」が9人から5人に減少し、同様に「社会の問題は自分たちで変えられる」に「そう思わない」と回答したのも9人から5人に減少した。自分も社会を構成するメンバーであり社会を意識する方向に変化したといえよう。こうした意識の変化をみると、これまでの考え方に刺激を与え、当初の目的を達成するプログラムとなったといえるだろう。

さらにプログラム終了後の関係者との反省会ではグループワークと個人作業によって「聞く」「話す」「発表する」「書く」というトレーニングの場になったという感想も出された。

このように今回のプログラムは一定の成果を上げることができたと考えられるが、その要因はグループワークの内容と進め方だけではない。

その1つの要因は1日目の夜にレクリエーションを入れたことである。埼玉純真短期大学の安倍先生が「コミュニケーションにおけるレクリエーションの活用——はじめて会った人と友だちになろう」をテーマとして90分のレクリエーションを実施した。これは、レクリエーションの意味を理解すると共にグループに分かれて様々なゲームが行われた。このゲームによって学生たちは知り合いになり、話をし、共感性を持った。それが次の日のワークショップの活性化につながったと考えられる。

Ⅲ プログラム開発

特に今回の参加者は3短期大学からの参加であり初対面の学生が多い。2日目のグループワークは3短期大学の混合メンバーで構成されていたので、前日の夜に良好な人間関係ができたことの効果は大きいものであったと考えられる。

もう1つの要因は、会館職員がファシリテーターとしてそれぞれのグループの進行役となったことである。事例分析は模造紙大のワークシートを作成する作業であったが、限られた時間の中で作成するためには時間配分を考え、必要に応じて質問したり、もう一度本を読み返したり、助言したり、どの学生にも発言を促すなど効果的であった。

さらに2日目の夜には様々なキャリアを形成している卒業生等20代、30代、40代の3人の女性をゲストスピーカーとして呼び、話を聞くプログラムも入れた。実際の経験に基づく話は説得力があり、先輩たちの話は多様な生き方を学び、広い視野を身につけることにつながったと考えられる。

5 課 題

以上のように成果の得られたプログラムであったが、いくつかの課題もまた明確になった。それを効率性、継続性、適切性という視点から見ておきたい。

まず第一に効率性をみてみよう。参加した短期大学の学生が25人に対してワークショップの時にはファシリテーターが4人、全体のコーディネーターを加えると5人のスタッフが配置された。2日目は一日中ワークショップが続いていたので、5人のスタッフが一日中貼りつくという状況であった。確かにきめ細かな対応ができたが、これと同じ対応をすれば30人が限界である。50人以上の参加者にも対応できる効率的な体制が求められる。グループのメンバーの数を増やす、グループの数を増やして一人のファシリテーターが複数のグループを受け持つなど人員体制を見直し効率的な配置が必要であり、それによって汎用性を持つプログラムとすることができるだろう。

第二はプログラムの継続性である。今回の参加者は熱心な学生が多く、共感性も高かった。しかしその場では影響されやすいがすぐに忘れる、熱しやすいが冷めやすいといった一面も持っていた。したがって今回のプログラムだけで終わるのではなく、このプログラムを踏まえて継続していく仕組み作りが必要である。

最後に、取り上げる内容の適切性があげられる。事前のアンケート調査をみると、今回の参加者の希望するライフコースは全国調査と比較すると専業主婦コース、再就職コースが多く、両立コースが少なく、固定的な役割分担意識の高さが表れていた。第3次男女共同参画基本計画でも「男女共同参画の実現の大きな障害の1つは、人々の意識の中に長い時間をかけて形作られてきた性別に基づく固定的な性別役割分担意識」であり、そこから脱却するための具体的施策があげられている。短大の女子学生を対象としたプログラムの中においても「職業キャリア」の部分を中心に充実させる必要があるだろう。しかし、それが自分だけのことを考えるのではなく社会との関係から理解する、「社会活動キャリア」のバランスから考えることを忘れてはならない。それを理解するためにどのようなモデルがキャリア分析の対象として適切なのかを研究し、新たなケースを提供していくことが不可欠である。

参考文献

- 国立女性教育会館 2006『女子大におけるキャリア教育・就職支援に関する状況』
- 国立女性教育会館 2007『短大におけるキャリア教育・就職支援に関する状況』
- 国立女性教育会館 2009『連携・協働を推進しつつ、地域づくりに参画するために（女性関連施設に関する調査研究報告書 平成20年度）』
- 神田道子 2011「男女共同参画時代の女性人権育成」『NWEC実践研究』第1号 6-19
- 中央教育審議会 1999「今後の初等中等教育と高等教育の接続の改善について（答申）」

Ⅲ プログラム開発

中央教育審議会 2011「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方
について（答申）」

（なかの・ひろえ 国立女性教育会館研究国際室長）